

# 輝く釜石東RC 創立50周年祝う



釜石東ロータリークラブの50周年式典。県沿岸部のロータリークラブ会員らもお祝いに駆けつけた

## 震災、存続の危機乗り越え

### 記念事業 ロータリーアクトクラブ結成

釜石東ロータリークラブ（RC）、河東眞澄会長、30人の創立50周年記念式典が11日、釜石市大町のホテルサンルート釜石で開かれた。約130人が出席。半世紀に及ぶ奉仕活動を振り返りながら、クラブのさらなる発展を誓い合った。

河東会長は式辞で「3年前の震災でクラブは存続の危機にあったが、50周年を目標として例会を復活させ今日に至った。地域と会員の真の復興を目指し、絆力を高め奉仕の

理想を追求し努力しあうことを誓う」と力強く決意。国際ロータリー第2520地区（岩手、宮城県）の代表らが祝辞を述べた。「50周年記念事業の一つ、釜石東ロータリーアクトクラブ（千葉綾乃代表、9人の認証状伝達式も行われた。ロータリーアクトは18～30歳の職業を持つメンバーが活動する。若い世代を育成し釜石を元気にすることを目的とし、同RC 50周年を機に結成された。2520地区では9番目のクラブ。認証を受けた市内の会社員、千葉代表（26）は「若い人たちが釜石を引っ張っていかねばならない」と思っている。みんなで協力して奉仕活動に取り組みたい」と意欲を見せた。

4分野の功労者を表彰、6団体に活動資金を贈った。ロータリー財団への寄付が1千ドルに達した会員の菊地敏文さん（在籍5年）には、「ボールハリスフェロー」の称号（メダル）が与えられた。長期在籍会員（23～33年）8人に感謝状を贈った。同RCは1964年、釜石RCをスポンサークラブとして創立。地域に根差した奉仕活動を展開してきた。東日本震災では会員25人（当時）のうち13人が被災したが、1人の退会者も出さず、逆に会員増を達成した。

功労者、活動資金贈呈団体、感謝状贈呈者は次の通り。

職業奉仕功労者  
瀬川清（新日鉄住金釜石）新日鉄釜石クラブ

部7連覇に貢献、製鉄職に精励、がれき溶融処理を指導◇社会奉仕功労者◇遠藤ゆりえ（かまいしリンク代表）鵜住居にラクビーカフェを開設しラクビーWC釜石誘致に向け活動◇国際奉仕功労者◇山崎達美（ボランティア通訳）アルペンスキー世界選手権で通訳、三沢米軍基地とのイベントを企画し国際交流に貢献◇新世代育成功労者◇下村恵寿（唐丹野球スポーツ指導者）同スポーツ発足以来40年にわたり指導、子どもたちの健全育成などに尽力◇社会奉仕活動資金贈呈、釜石シーウェーブ、釜石RF、小さな風◇青少年同いっしょスカウト釜石第2団◇国際奉仕同いっしょ釜石ユネスコ協会、釜石市国際交流協会

◇感謝状◇伊藤建三（33年）玉木弘（30年）遠藤秀則（29年）川崎寛久（同）福成和幸（28年）中塚吉徳（27年）小泉嘉明（25年）堀晃（23年）※かつこ内は在籍年数